

# 郷土の偉人「佐藤義亮」生誕130年

## 記念式典並びに記念講演行われる

仙北市角館町出身で日本を代表する出版社「新潮社」の創始者である佐藤義亮の生誕130年にあたり、この度市はその功績を讃え、記念式典・記念講演を開催しました。去る7月12日、会場となった伝承館に「新潮社」四代目社長であり義亮のひ孫にあたる佐藤隆信氏や佐藤家の方々をお迎えして、来賓・参加者150名あまりと盛大なものとなりました。式典の冒頭石黒市長は、義亮の偉業と今日まで続く新潮社の甚大な協力に



佐藤新潮社社長あいさつ

敬意を表し、新潮社と角館の間に息づく「縁」と義亮の遺徳を大切に顕彰していくことを述べ、次に佐藤隆信氏が、郷里角館との「縁」が力となり、そこに伝統の力が加わり、未来へと新潮社を育てていってくれる。また、互



菅先生講演



高井先生講演

いに「縁」を大切に成長することを願うと述べられました。続く記念講演では、お茶の水女子大学教授菅聡子先生が「明治の出版と文学—佐藤義亮の登場」と題し、新潮社記念文学館名誉館長であり作家の高井有一先生が「作家にとって編集者とは」と題し、それぞれ貴重なお話をいただきました。夕方からは場所を移し、仙北市・角館図書館後援会（高橋雄七会長）の共催による祝賀会が催され、改めて義亮や出版界について熱く語られました。

## 義亮といふ人

佐藤義亮は明治11年2月18日、角館町に生まれ少年期より本を好み、文筆に関心を持つ少年に成長します。文学熱が高まり、志を抱いて明治28年3月30日、17歳で上京を果たします。以後、平坦ではなかった日々の困難を克服し、明治29年「新聲社」創立の後、明治37年に今日の「新潮社」を創設しました。この時、義亮26歳。ふるさとへの深い思いを胸に大望を果たした義亮は、大正11年から角館図書館へ書籍を寄贈。以来85年にわたり彼の遺志は受け継がれ、今日も続く本と市民の交流は仙北市にとっても内外に誇れる偉業となっています。



## ～出版報国は百年を越えて～

新潮社記念文学館では、義亮生誕130年の今年、企画展として常設展示のなかで数々の業績を紹介しております。仙北市民は入館無料です。一度足を運んでみてください。



お問い合わせ

新潮社記念文学館(仙北市総合情報センター) TEL(43)3333